

自己評価及び外部評価結果(やまと館)

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200810), 法人名 (有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生), 事業所名 (グループホーム蔵 やまと館), 所在地 (札幌市北区新川2条10丁目1番35号), 自己評価作成日 (令和3年10月30日), 評価結果市町村受理日 (令和4年1月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◇やまと館は、「利用者様の立場に立って物事を考えよう。」「明るく楽しく笑顔の絶えない一日を。」などしこ館は、「笑顔であせらず、ゆったりと」をモットーにしている。◇各ユニットで《気を付けたいこと》の項目を掲げ(例・上から目線の声かけになっ...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kan...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は、北区新川の幹線道路に程近い、閑静な住宅地に立地している。運営法人は、西区発寒にも2ユニット18名利用のグループホームを展開しており、各事業所間の情報共有や研修の充実が図られている。当事業所の特記すべき点は、職員による理学療法士資格の取得、配置を実現している点である。残存能力の活性化や生活・運動機能の向上等、今後の事業所運営に求められる課題を見据えた先駆的な取り組みを高く評価したい。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果(やまと館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、職員全員で理念の見直しを行っている。毎週、月曜日には、当日勤務の職員全員で理念の唱和を行っている。又、ユニットごとに決めた「気を付けたいこと」の項目から一つを選び、共有し実践に努めている。	理念を玄関やリビングに掲示し、定例で唱和することで共有している。主に会議の場で理念への理解を深めており、毎年見直しの機会を持ちながら、ユニットごとに目標を定め、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域の行事等での交流は出来なかったが、町内会から花の苗を頂き、利用者と一緒に植えたり、近所の方から、折り紙で作成した、お守りなどを頂いている。又、散歩などで、地域の方々との挨拶を交わしている。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、事業所の近況の周知等、関係維持について、職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、書面で利用者の生活の様子を伝えている。又、「利用者の理解」「高齢者の虐待」などを会議の議題に揚げ、地域の方々に伝えるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面会議としている。利用者状況、サービス内容等を報告し、アンケート形式で毎回、ご意見を頂いている。サービス向上に活かすよう努めている。	通例では、管理者を中心に家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。今年度は書面での開催となっているが、運営状況や現状の問題点まで論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、密に連絡を取っているとは言えない。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通し、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えている。又、空き状況によっては、入居に関し、相談をしている。	行政の窓口とは、定例の運営状況報告の他、運営推進会議や集団指導の場で随時アドバイスを受けており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、様々な角度から意見交換をしている。玄関の施錠は夜間のみ、行い、拘束をしないケアに努めている。又、定期的に研修を行い、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を経過から終息まで職員間で協議し、繰り返す事のないよう周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、各自、書面での職員研修を行い、事例検討後に各ユニットごとに話し合い、レポートを提出した。互いに注意し合える環境づくりを意識し、身体拘束廃止委員会で、話し合いの場を作り、見直し、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は今のところ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、学ぶ機会を持っていない。現在入居中の利用者に、必要性のある利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ、説明を行っている。又、不安等について尋ねている。料金の改定がある時は事前に手紙等で伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、意見や要望を伝えて頂く機会がある。又、家族の来訪時や電話、手紙などでも、意見等を伝えて頂ける機会に努めている。	写真を添えたお便りや電話で、利用者の日常の様子を伝えている。事業所のサービスや職員の介護姿勢等について寄せられた意見を検証し、運営推進会議の場で公表しながら、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議、学びの会、カンファレンス時等で、意見や提案を発言出来る様に、努めている。	月例の会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任より、個々の実績を報告してもらい、実際に現場を見て、向上心を持って働けるよう、時には面談をする等、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修等は、計画的に行っている。個々のレベルに合った、外部研修を受ける機会も設けていたが、コロナ禍の為、リモートに切り替えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流は出来ていないが、代表者とのネットワークは取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、本人に要望等について、お聞きしている。又、それまでに受けていた介護サービス事業所等から情報を頂き、本人の安心の確保が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が、不安な事などを遠慮なく聞きやすい相手であるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受ける段階で、必要な支援は何かを検討し話し合っている。又、ホームのサービスだけでは不足するものがあれば、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切に、利用者の立場に立って物事を考えるよう努めている。「共に生きて共に暮らす」、の理念に沿って関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話等で近況報告をしている。対応が難しい時は、家族に相談し、意見を頂いたり、協力を得ている。リモートや窓越しでの面会も実施し、連絡ノートに記録し、職員間で共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、他者との面会や外出は出来ていないが、ビデオ通話や電話で関係継続の支援を行っている。	通例では、馴染み希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍において、現在はビデオ通話、電話連絡の頻度を上げ、意見の聴取、関係が途切れぬよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や相性を把握し、テーブル席を検討している。又、関わりが円滑に出来る様、場合によっては、間に入り対応している。レクリエーション等で利用者同士の関わり合いを持ち、笑顔で支え合えるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今は、コロナ禍で難しくなっているが、それまでは、入院し退去になった方のお見舞いに行っている。又、退去した方のご家族が、退去後も数年にわたり、ホームの行事に参加頂いていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを職員全員が把握して、本人の希望に添える様、カンファレンス、ミーティング等で検討している。センター方式のB-3シートを活用し、希望を表現できない利用者の思いを検討している。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にアセスメントを行い、情報共有している。	本人から最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に記載して頂いたセンター方式を職員全員が共有し、把握している。カンファレンスの度、生活歴など読み返している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで過ぎて頂けるよう努めている。会話や行動で変化が無いが、見守っている。有する力の変化等を把握し、提供するサービスを検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、一人ひとりに合わせたケアとあり方を話し合っている。個人カンファレンスでは、ご本人も交え、話を聞く機会を作り、それを元に介護計画に反映するよう努めている。	職員相互で日々のモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また、随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況やケアの実践、気づきなどは個別に介護日誌(タブレット端末)に記録し、職員全員で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策の為、中々面会は難しいが、ICTを活用し、以前より連絡を密に取り、ニーズに対応できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策で、どうしても閉鎖的な生活になっている。以前は、ボランティアの受け入れや、盆踊り等の地域行事にも出かけていた。その代わりになるものごと、施設内で盆踊りを行ったり、出張ラーメン等、楽しめる物を提供できる様努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族に選択して頂いている。訪問診療とは別に、眼科など、専門科に受診することもある。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関との連携があり、体調面・支援方法について職員間で共有している。また、健康管理を目的とし、看護師の配置がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週2回勤務し、介護職員からの情報の共有、連絡、相談を行っている。看護師から訪問診療医師等に相談するなど、適切な受診や看護を受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師に、紹介して頂く形で入院先は決定し、その際にフェイスシート等を活用し、情報伝達に努めている。又、病状の説明等には、必ずご家族に付き添い、話を聞いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が摂れなくなってきた、など変化があれば、早い段階から医師、ご家族を交え、話し合いが出来る機会を作っている。今後の方針について十分に納得して決めて行けるよう、支援に努めている。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ており、家族と終末期を支えるための話し合いを重ねている。協力医療機関との連携と看護師の配置があり、家族、職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っている。応急手当等の備品の置き場所は職員全員周知している。発熱、嘔吐等があった場合は、コロナウイルス感染症を想定し、対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほぼ毎月、避難訓練を実施している。利用者も参加し、夜間、日中など様々な場面を想定している。水害対策では、二階へ昇る事も実施している。コロナ禍の為、年一度行っていた、消防職員による指導や地域住人等の参加は出来なかった。	毎月、利用者も参加しながら火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域町内会との協力体制も含め、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、誇りを尊重し、身体拘束廃止委員会では、「気を付けたい項目」を掲げて、話し合っている。項目には、「上から目線の声掛けになっていないか自分の言葉を振り返る」等がある。	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々のトイレ誘導や入浴時の対応等も見直ししながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望がある場合は、出来る限りその時に一緒に出掛けられるよう、努めている。飲み物の好みなど、数種類の中から、選んで頂く等、自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前ラジオ体操、下肢ストレッチ、歌唱、午後はレクリエーション等の日課はあるが、強制することなく一人ひとりのペースに合わせ、声掛け誘導等を行っている。趣味ごとの提供や居室で休む等、個人の希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容を行っている。行事、外出等でも服装や髪型を、本人の希望を取り入れ、行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、出来るだけ希望に添える様努めている。又、食事の盛り付けや食後の食器すすぎ、食器拭き等を毎日お手伝いして頂いている。	季節感、盛り付けに配慮し、彩りあるものとなっている。調理の過程や下膳、テーブル拭き等、体調や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ペースト食、お粥、トロミつけ、栄養補助食品等、個々の嚥下や栄養バランス等に合わせ提供している。食事量や水分量は毎食ごとに記入、確認している。12月には、管理栄養士によるカロリー計算を予定している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の確認を行っている。磨き残しがある場合は、仕上げ磨きを行っている。義歯は毎日洗浄剤を使用し、口腔ケアスポンジも毎日交換している。歯ブラシも定期的に交換している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を見て、羞恥心に配慮しながらトイレに誘導している。トイレの場所が分からなくて不穏にならない様、さりげない声掛けをしている。トイレに座っている時は、本人のペースで排泄が出来る様、ゆっくり待ち、支援している。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。排泄時の羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に乳酸菌飲料を提供している。又、料理にオリブオイルをかけるなど、便秘予防に努めている。個々に応じて、歩行運動や、立ち上がり運動、昇降運動を毎日行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の日程は決めて行っているが、個々のタイミングや希望に合わせて、入浴順等を変えている。入浴の時間を楽しめる様、係わりながら支援をしている。	ほぼ毎日お湯はりを行い、週に2回以上入浴出来るよう努めている。拒否がある場合、無理強いすることなく、時間帯や担当者を調整し、会話しながら楽しみある時となるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、一律に同じ時間に消灯はしていない。就寝まで居室でテレビを楽しむ利用者もいる。昼寝をする利用者もいる。又、不調の訴えが出来ない利用者の様子を見て、休める様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルや薬情報のファイル等で、薬の目的、副作用等の確認が出来るようにしている。特に新しく処方された薬による症状と思われる変化は、介護日誌に記入し、全員で周知できるよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、すすぎや洗濯物干し、畳み等の家事仕事を行う事で、役割を感じて頂いている。又、散歩や塗り絵等で気分転換される利用者もいる。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もコロナウイルスの影響で、遠くへの外出は出来なかったが、町内のみでの散歩は行っている。歩行状態の悪い方は、敷地内の菜園や花壇を眺め、楽しんで頂いている。桜の時期には近くの公園まで外出している。	通例では、全体行事の他、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物に出かけている。コロナ禍においても、閉じこもらない介護を検討し、感染防止に留意しながら、外気浴などを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、金銭管理が難しく、ホームで管理している。コロナ禍で外出も出来ていないため、お金を使う機会が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話がかかってきた際は、居室でお話して頂けるよう支援している。又、リモートでは職員が側に寄り添い、ご家族との間を取り持ち、会話にも参加している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には冷暖房を完備し、年中快適に過ごせる様支援している。玄関、廊下、居間には広いスペースを確保し、安全に配慮した空間づくりをしている。壁には季節を感じて頂けるよう、四季に合わせた飾り付けをしている。	リビングは採光も良く、温度や湿度が適切に管理された解放的な作りとなっており、利用者と職員の手による四季を感じる飾り付けや行事写真で飾られている。事業所内は感染防止対策として、換気、除菌消毒を徹底しており、面会制限がある現状においても、事業所としての取り組みに家族から理解を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファとテレビを配置して利用者がくつろげる空間を作っている。壁には、写真を貼ったり、季節が感じられる飾り付けで、楽しんで頂いている。又、玄関ホールに畳イスを配置し、思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、使い慣れた物、なじみの物、家族の写真や手紙をボードに貼ったりし、居心地よく、安心できる様に工夫している。	居室は自宅で使い慣れていた家具が持ち込まれ、思い出の写真や小物がいつも視野に入る場所に掲示されており、意心地良く、安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸口には、利用者個人の写真と大きな字で名前を示している。トイレも大きな字で表し、分かりやすい環境にしている。		